別紙様式

成果（○）と課題（●）　　校番（１０）【和庄中学校】

１　「本質的な問い」による単元構想について

○　本単元の本質的な問いに対して，生徒は職場体験学習で，単元を通して個々に考えを深めることができた。第４次のポスターセッションに向けた取組では，職場の人は事業拡大やお客様のためにどのような工夫をしているのか，生徒が体験した中で学んだことをポスターに表現することができた。中間報告の他グループの発表で「失礼します」などの挨拶が，思いやりのある接客につながっていることに気付き，ポスターに挨拶の重要性を書き加えた生徒もいた。働くことの意味や働く人の願いに気付くことによって，自分の将来や職業をより深く考えるきっかけとすることができた。

２　単元（題材）で育成を目指す資質・能力について

【思考・判断・表現】

○　全体としてポスター作成ではデザインの工夫や伝えたいことの精査ができていた。中間報告後，改善点をグループで一つにまとめることで，グループで改善点を共有し，問題意識を全員がもった上でポスターを完成させることができた。グループの改善点では，声の大きさや目線などの他に他グループの発表を見て「図を増やしたいと思った」「大変さや楽しさを伝えるために内容を細かくしようと思った」「余白の部分を工夫しようと思った」などの反省がみられた。発表を実際してみたことで気付けたことがあった生徒や，他グループの発表を見て改善したいと思った生徒が多く，４校時の中間発表の直後の５校時に改善点をグループで共有し，ポスターづくりに取り組む時間を設けたことでよりよいポスター作成に向けて効果的な時間になったと言える。（写真１）のグループは，この職場で大切にされていることを一目で分かるようなデザインにしている。また，発表中はメガネの拭き方や置き方を実演し，わかりやすく伝えることができた発表となっていた。（写真２）のグループは，似顔絵の重要性について実際に描いて特徴を捉えることなどを説明していた。このように実際に体験しなければ分からないことを他の生徒に紹介することができた。

●　発表を聞いた生徒の評価シートでは，事業所の工夫についてわかったことを記述している生徒が少なかった。多くは「わかりやすかった」など簡素なものであったため，工夫について重点的に書くよう指示をすることや，評価のポイントについて事前学習をするべきであった。

（写真１）
メガネの２１ポスター

（写真２）
呉警察署のポスター

【主体的に学習に取り組む態度】

●　ポスターセッションをした時の質問については，多くの質問がでなかった。素朴な疑問に答える姿が見られる一方で，質問が少なくセッションになっていないグループもあった。事前に職業について学習したり，簡易セッションなどをふまえて本番を迎えるなどの工夫が必要であった。

３　「デジタル機器」の活用

○　代表グループを選ぶ際，ロイロノートのアンケート機能を使った。ポスターの作成や発表準備に時間がかかるため，アンケートにタブレットを使うことで時間や手間を短縮することができた。

○　中間報告後の改善点について，まず個人で反省点を考え，ロイロノートで提出させた。その後，グループで個人の反省点を共有し，問題意識を全員が持った上でポスターづくりに取り組むことができた。タブレットに書いた反省点はグループのメンバーに説明しやすく，書き込みもできるため効果的な使い方ができた。